

地域交流による農村地域の活性化と次世代への農業の継承

都市的地域

20.伊勢原市ふるさと大田を守り楽しむ会（神奈川県伊勢原市）

- 本地区は、伊勢原市東部に位置し、多くの農道や水路が存在する水田地帯で、平成10年度から平成24年度にかけて、県営ほ場整備事業を実施した地区である。
- 当時、土地改良区や地元農家を中心となっていた農道や水路などの農業用施設の維持保全活動は、後継者不足等の問題による今後への不安から、ほ場整備をきっかけに、JAや自治会、教育関係者が加わった活動組織「伊勢原市ふるさと大田を守り楽しむ会」を設立し、農地や農業用施設の適切な維持管理に取り組んでいる。
- 併せて、緑肥効果のあるレンゲ等の景観植物の植栽や「田んぼの生き物調査」により、地域住民との交流活動を展開し、次世代への農業の継承の契機とすべく、広く地域の共同活動に発展させている。

【地区概要】

- ・取組面積 59.84ha
(田 59.84ha、畑 0ha)
- ・資源量 開水路8.8km、パイプライン13.2km、農道12.6km、ポンプ場3基
- ・主な構成員
農業者279名、非農業者8団体
(土地改良区、JA、自治会、PTA他)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

農地維持活動の状況



パイプラインの
点検補修



農道の
維持補修

交付金を活用し、農道の砂利敷きや水路法面の草刈り、パイプラインや揚水機場の点検補修等に取り組んでいる。

資源向上活動の状況

レンゲ祭り
4月開催
約1,000人来訪



景観形成活動としてレンゲ等の植栽を行い、地域住民との交流活動へ展開。

田んぼの生き物調査
8月開催
約50人来訪



地域住民と連携し、生き物調査を通して農村環境の学習を実施。

効果と今後の展開

ほ場整備が進み、交付金を活用して取り組むことにより、維持管理が充実し、担い手農家が営農に集中できるようになった。

また、農作業の受委託を目的とした営農組合が設立され、担い手への農地集積に寄与。

		対象農用地面積 (ha)	受益面積 (ha)	集積率
ほ場整備前	平成20年	35.0	72.8	48%
ほ場整備後	令和2年	59.8	72.8	82%

今後も、地域の担い手への農地の集積を図るとともに、地域資源の適切な保全の方向性について、話し合いを継続的に行う。



農地集積、施設の維持管理の話し合い